

19年度第1回 地震防災研究会 定例会の資料
テーマ：仕事で、磨く個性、積み上げるキャリア
～～人は仕事に励み、仕事は人をつくる

講師：toga(元教育実践家)

日時：19年04月25日(木)

お若い方向けの話かと思いますが、ソフトな教育の話として、ここで扱うことにします。

1. はじめに 我らは勉強や交流により自らポテンシャルアップし仕事をしております。そんな姿勢により遂行される仕事のキスは必ず自分自身に戻り、自らの成長や円熟味増をもたらしてくれます。言うなれば、仕事で人がつくられる(育まれる)といったことかと思えます。

今回の朝活では、「仕事と人間」のいう枠で仕事から得た「もの・こと」が自分の中にどう蓄積されていくか、垣間見ようということです。

具体的には、現場やオフィスでの人間関係や実働に加えて姿勢やモチベーションなどの観点から、個性とキャリアを念頭に、仕事そのものを展望します。もちろん、皆さんとともに語り合いたく思っています。お付き合いください。なお、仕事について、こだわり・やりがい・プロスペリット、なども時間があれば取り上げたいです。

○アプローチ

主題：個性とキャリアのとらえ方、仕事とのかかわりあい

→具体的で身近な問題からの論とする。

着目：「仕事と人間」の枠組み

構成：仕事とは、キスとは

人間関係、分業様相、仕事キスのキャッチ

現場・オフィスの環境、

客・同僚・チームの人間関係行動、分業様相

定義 個性：個人の持つ性質や特徴のこと。パーソナリティ

キャリア：職業上の経歴のこと。プロ。

○進行

- ・具体的な事例を各自から出し合いながら。
- ・参加：議論に参加、ともに作り上げる。
皆さん各自がプロゆえに、プロ同士の輪の中で。
- ・語り合い：話題提供最中にも、質疑応答ではなく、語り合う。WSはテーマの分担課題について論議するけれども、部分課題まで取り込むものではなく、また主導側のストーリーにのっとった参加者の声の集積に過ぎない。
- ・展望：部分や断片の事・物を一堂に出し合い、全体像

をつかみながら部分同士に脈絡をつける。

・位置づけ：各自出し合ったものを共有するとか交換するということではなく、その中で各自の位置を確認しあう。これが全体における各自の相対化であり、自己の位置をより確かにできると考える。

○仕事を中心にした種々環境

環境：現場、オフィス

分業：管理、事業、運営、財務

企画、計画、製作、売買

人間関係：売り手・買い手、上司・部下、仲間、

市民・専門家

2. 討議の根拠

(0) 定義

個性：個人の持つ性質や特徴のこと。パーソナリティ

キャリア：職業上の経歴のこと。プロとしての実績の総称。

仕事のキスの蓄積度合いといったところ

(1) 個性

特徴や性格・性質が作られるとは。

環境や人間関係でつくられる。どのように。

仕事には積極的にアウトプットしている。

(2) キャリア

どんな職でも携われば歴となる。

一般の理解：

密に関わった職、という条件がある。

歴があってもそれが実績となるもの。

どうキャリアを積む

実績となるように仕事に励む。結果が実績。

3. 討議課題

○仕事をどう捉える

・位置

実働に際し：主導型(指導的含む)、チームメンバー型

関わり位置：マネジメント・方針策定、現場中心

・スタッフ側 組織構成、人員構成、財務、事業構想、事業実施

現場側 接客対応、販売、製造

・各自 準備：勉強、素養、実績、人脈、交流、健康体調

本番：問題発掘、問題解決、粛々遂行、

効果的力配分、接客、連携プレー

・キス コミュニケーション、アイデア、信頼、各自の姿勢、評価、達成度、

○仕事への関わり

○エクス

仕事から特に何をエクスとするのか

○自分にどうリターンか

評価、報酬、名声、箔、他からの信頼、

キャリアのページ刻み、ポテンシャルアップ

次への継続、

○個性には

自分関わりそのもの、試練成果、

自分専門発揮(自分アイデア発揮)

○キャリアには

実績、歴史充実、箔、

○満足

満足、やりがいへ、

2. 仕事と人間

人は仕事に励み、仕事は人を作る

(1) 職場内で

人間関係、仕事遂行上の意思疎通、創意工夫

(2) さらに得るものは

やりがい感、キャリアの蓄積、ロマン、プロ素養

(3) 人生の次元では、日頃から

歴史の確かな積み重ね、(問題発掘・解決素養)

3. 本業そのもの

(1) 顧客満足度アップ； 顧客反応、業務狙いの充実度

(2) 本業のグレードアップ； 効率化、ハイクオリティ

(3) さらに発展； 中長期展望

4. 関心事

- ・職場； 人間関係、仕事遂行上のコミニク、
- ・本業； 勉強活かし方、勉強仕方、練り上げ、達成感、進言、受け入れ、中長期展望、など
- ・枠を超え； 交流、勉強を含めた知的交流、デュアルワーク(二枚目名刺)、

5. 論議に際し

各自の仕事に関するこれまでの体験をベースに現状と近未来を議論。

6. 論議

6.1 企業にて

○職場にて

- ・上司(中堅)と若手 チームの役割分担、同僚間
- ・部局間の交流
- ・中長期展望の推進の仕方

○自身

- ・自分の個性やキャリアに関する仕事の役割
- ・枠外交流 異業種、朝活、協会

6.2 社会にて

○社会において

- ・個性、社会での理解
- ・創造性、育みと発揮

○教育

- ・学校教育、尊重具合
- ・現場先行主義

○組織化に

- ・文系人と理系人
- ・起業力

○専門家の役割

- ・仕事の効率化
- ・狭く深く

○学び

- ・スキル中心
- ・単純化
- ・取り組み姿勢(役立たせ方)
- ・好奇心
- ・問題発掘と解決能力

7. 具体的能力

○姿勢を磨く

問題発掘と問題解決にむけて

楽しさ享受、やりがい蓄積

○能力

観察 情報洪水で観察はなかなか難しい

分析 表やグラフは瞬時につくえるが

構想 練習していないと

総合 練習していないと

プレゼン 伝える→時には考えがなくてもプレゼンで

聞く側もプレゼン物語に埋没気味

考える力の減少、物の本質発見がかすむ

ディスカス →書きものを読まない傾向

聞き手が空想や創造の機会が減少

評価 →第三者にゆだね気味、

絵画もそう。価値が分からない。

評論を聞いて同調。真価を見抜く力が減少。

批判 アルタネイティブにもものを見るのが基本

○スキル

分析技術 → 各種アプリ

コミュニケーション個別スキル：話し方、聞き方(傾聴も)など

情報処理スキル：速読、

ほか

8. おわりに

勉強後の実践に着目して皆さんのこれまでの実践を語り合うところに仕事本来の楽しさを垣間

見ることが出来ました。(皆様どうも有難うございました)